

政策 2

学校教育の充実したまちづくり

目標

(めざすまちの姿)

子供たちが新しい時代を生き抜くために必要となる学力、人間性、体力を育むことができるまち

現状と課題

本市では、就学前から義務教育までを一体的に捉え、主体的・対話的で深い学びを大切にしながら、さまざまな教育活動を通じた小中一貫教育を進めてきました。子供たちを取り巻く環境が急激に変化している中、学習した知識や技能を人生や社会に生かす力や、さまざまな課題に対応できる思考力・判断力・表現力等、IoT や AI などさまざまな先端技術を駆使した課題解決が求められるこれからの社会において持続可能な社会の創り手となるための資質・能力を育む必要があります。

また、いじめや不登校、子供の体力の低下への取組は喫緊の課題であり、子供たちのさまざまな悩みに対応するとともに、食育や体力づくりなどの取組を進め、豊かな心やすこやかな体を育むことが重要です。さらに、教育費の負担軽減など、家庭に対する経済的支援を行う必要があります。

学校教育に求められる役割が増大する中において、教育の質をさらに向上させるためには、教職員を支える組織体制と仕組の構築が不可欠となっています。学校施設については、昭和 40 年代から昭和 50 年代に建設されたものが多く、令和 14 年（2032 年）には築 50 年を超える学校施設が約 8 割を占めることから、子供たちが安全で快適な環境で学習できるよう、引き続き、老朽化への対応を進める必要があります。

市民意識指標
(主に関連するもの)

	H26	R4 (速報値)	R10 目標
安心して子育てができる環境にあると思う世帯の割合	62.3%	56.0%	75%
学校教育に満足している市民の割合	20.9%	25.6%	50%

目標への評価
(R4)

	そう思う どちらかと言えばそう思う	どちらとも言えない	そう思わない どちらかと言えばそう思わない
市民	52.4%	35.4%	11.4%
市職員	63.6%	31.8%	4.6%

令和元年度（2019 年度）以降のトピックス

- ・中核市移行により、府費負担教職員の研修に関する権限が移譲され、市の実態に応じた研修体制を構築しています。
- ・コロナ禍により、GIGA スクール構想に基づく DX 推進の取組が加速しています。
- ・いじめのない学校づくりの実現を目指し、「すいた GRE・EN スクールプロジェクト」として、スクールソーシャルワーカーの配置時間の拡充や、専任のスクールカウンセラー、いじめ対応支援員の増員、いじめ防止相談ツール「マモレポ」などの取組を行っています。



施策

4-2-1 学校教育の充実

学校教育部

新しい時代に必要とされる資質や能力を育む小中一貫教育を進め、ICT教育、英語教育、食育・体力づくり、読書活動など教育内容の充実を図ります。また、いじめや不登校などに悩む子供一人ひとりへの対応や特性に応じた支援体制と教職員が本来業務に集中できる働きやすい環境を整えるとともに、就学援助など、安心して学ぶことができる取組を進めます。

4-2-2 学校教育環境の整備

学校教育部

学校施設の適切な管理を行うとともに、インクルーシブ教育の推進に向けて、安全かつ快適で、一人ひとりの教育的ニーズに対応できるよう教育環境を整備します。

■ 施策指標 ■

施策	指標名	策定時	見直し時 (R3)	目標 (R10)
4-2-1	授業で学習したことが将来社会に出た時に役に立つと思う小・中学生の割合	小：87.1% 中：78.4% (H29年度)	小：89.8% 中：86.5%	小：95% 中： <u>92%</u>
4-2-1	学校へ行くのが楽しいと感じる小・中学生の割合	小：86.6% 中：80.6% (H29年度)	小：82.1% 中：82.5%	小： <u>88%</u> 中： <u>85%</u>
<u>4-2-1</u>	<u>いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う小・中学生の割合</u>	—	<u>小：96.7%</u> <u>中：95.4%</u>	<u>100%</u>
4-2-2	小・中学校の校舎及び体育館の大規模改修の実施率	18.2% (H29年度)	61.4%	100% (<u>R7</u> 年度まで)

▶▶▶ 関連する主な個別計画

○教育振興基本計画 吹田市教育ビジョン

▶▶▶ 関連する主な条例

—